

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 減少傾向にある院生数に歯止めをかける方法を2010～2012年度に検討し、順次、実施に移す。	→大学院生の定員充足率	C	C			
2. 総合政策学部・成績優秀者の内部進学者を増やす方法を2010年度中に検討し、実施する。	→総合政策学部からの内部進学者で成績上位50番以内の学生数	C	C			
3. 社会人大学院生を増やす方法を2011年度までに検討し、2013年度までに院生数に占める割合を3分の1に増やす。	→社会人大学院生の院生数に占める比率	D	C			
4. 留学生の数を増やす方法を2012年度までに検討し、アジア諸国を中心に国の多様化も図る。	→大学院留学生の総数と留学生の国の数	C	C			
5. 英語のみで修了可能なコース（国際開発戦略コース）の院生数を2013年度までに10名に増やす。	→英語での修了コース（国際開発戦略コース）の大学院生の数	D	C			
6. 「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ科目」を新たに設置し、それぞれのコースに所属する院生を5名確保する。	→「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ」に登録する大学院生の数	D	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					



(その他の指標データ)  
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】  
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合  
 科目等履修者の入学者数  
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】**伸ばさせるための方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	「一級建築士コース」の履修者は1名にとどまっている。「災害復興コース」は未設置であり、早急に設置する必要がある。

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	東日本大震災において、本学部・研究科の多くの学生・教員が被災地で支援活動を展開している。この経験を「災害復興コース」の枠組み作りに反映させる必要がある。

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

- 特に前期課程の学生数が減少傾向にあり、対策を検討する必要があります。
- 指摘があるとおり、被災地での支援などの実績も踏まえた災害復興コースの設置は大いに期待されることです。

## 【学内委員】

- 志願者数、合格者数および入学者数の漸減傾向が懸念されます。このことについては自覚されていますが、効果的な方策を発見されることが期待されます。また、収容定員に対する在籍学生数比率が低レベルであることは構造的な現象であると思われるので、抜本的な改善方策が求められます。
- 全体的に説明は丁寧で適切です。なお、アドミッション・ポリシーは、説明されているように、入学にあたり修得しておくべき知識の内容や水準を明示する必要があります。
- 志願者数、在籍数は総合政策学部だけの問題ではありませんが、その割合は低く大きな問題です。また、他の課題も示されていますので、その改善ならびに、各目標の着実な進展と達成に期待します。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目5.0.1  
基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」
- 小項目5.0.2  
基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」
- 小項目5.0.3  
基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」  
(略)  
「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
(略)  
「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
(略)  
「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」
- 小項目5.0.4  
基盤評価：なし  
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」
- 小項目5.0.1～5.0.3  
達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）  
・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性  
・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 本学学部を卒業後、国公立大学院に進学する学生が毎年一定数存在し、彼らに対して本研究科の魅力及び経済的負担の軽減策（奨学金他）を正確に伝えるよう努力する。学部3年生修了からの飛び級進学の実績が出来たので、優秀な学部生の飛び級進学をさらに促進する。社会人大学院生の獲得については、キャンパスの立地条件が非常に不利な状況にあるため、上ヶ原キャンパスや梅田キャンパスの活用を引き続き検討する。また、収容定員の抜本的見直しも検討する。